

コロナから入所者の健康を守り、子どもたち家族に安心いただき、入所者募集に寄与するご提案です。

はじめに)

コロナは基礎疾患のある高齢者にとって、とても恐ろしい感染症です。

多くのクラスターが発生したこともあり、職員の PCR 検査や抗原検査の励行や面会禁止など、可能な限りの対策を取られてきたものと推察します。

職員は常時マスクをしているため、入所者に感染させるリスクは低いかもしれませんが、入所者がデイケア・デーサービスなどで感染するリスクはゼロではありません。また感染者の居室が陰圧となっているため、居室から廊下への空気の流れが発生し、廊下からつながったデイスペースにまで一気にエアロゾルが流れ、感染のリスクが発生することがあります。

エアロゾル感染から入居者の命を守るためには、換気の徹底が欠かせないことがわかってきました。

自分の部屋での感染リスクは低いかもしれませんが、高齢者は毎回の食事時間が長いことから、デイスペースがもっとも感染リスクが高い場所と考えられます。デイスペース内の換気の徹底が欠かせません。

しかし、いかに換気を徹底していても、そのことがきちんと伝わらないと安心してもらえません。

換気の徹底の事実を伝えるには、目に見える形にすることが必要です。どうしたらいいと思われませんか。

室内の CO<sub>2</sub> 濃度の生データが安全基準の 1000PPM 以下であることを確認できれば、安心いただけるのではないのでしょうか。1000PPM というのは厳しい数字です。寝室のドアを閉めて寝ると、起床時には 1000PPM を超えます。狭い車内で空調を内部循環にしていると数分で 1000PPM を超えてしまいます。

安心のためになすべきことは

#### 1 のケース

- デイスペースの見やすいところに CO<sub>2</sub> センサーを設置し、CO<sub>2</sub> 濃度の生データを、職員だけでなく、入所者が自分の目で確認できるようにすることです。
- 換気の徹底と CO<sub>2</sub> 濃度について、入所者に丁寧に説明しておくことが必要です。1000PPM を超えないように、入所者にも監視してもらえるようになります。

#### 2 のケース

- デイスペースの CO<sub>2</sub> 濃度の生データを、職員だけでなく、入所者の子どもたち家族が自分のスマホでどこからでも見られるようにすることです。
- CO<sub>2</sub> 換気アドバイザーの資格を取得した検査員が空気の流れを確認し、デイスペース内で高い数値を示す測定場所を特定し、適切な計測場所に CO<sub>2</sub> 濃度測定器を設置します。入所者が集まるその他の場所には数値表示のある CO<sub>2</sub> 濃度測定器を別途設置しましょう。
- さらに、換気の徹底と CO<sub>2</sub> 濃度についての基本知識を、入所者の子どもたち家族にわかりやすく伝えることで、安心してもらいましょう。 C-Kan サイト (<https://site.c-kan.jp>) 参照

こうした姿勢が貴施設への信頼感を高め、入所者募集にも寄与することが期待できます。

C-Kan プロジェクトは2のケースの条件を実現できる現在唯一の方法です。

実現のために必要な費用は、導入費 33,000 円、年間使用料 33,000 円（契約は3年、以降毎年更新）

※1000PPM を超えるため、換気工事が必要な場合もあります。工事費の 2/3 の国の助成を受けることができます。

C-Kan プロジェクト HP の [お問合せフォーム](#) からご相談いただければ、対応しますので、お気軽にご相談ください。